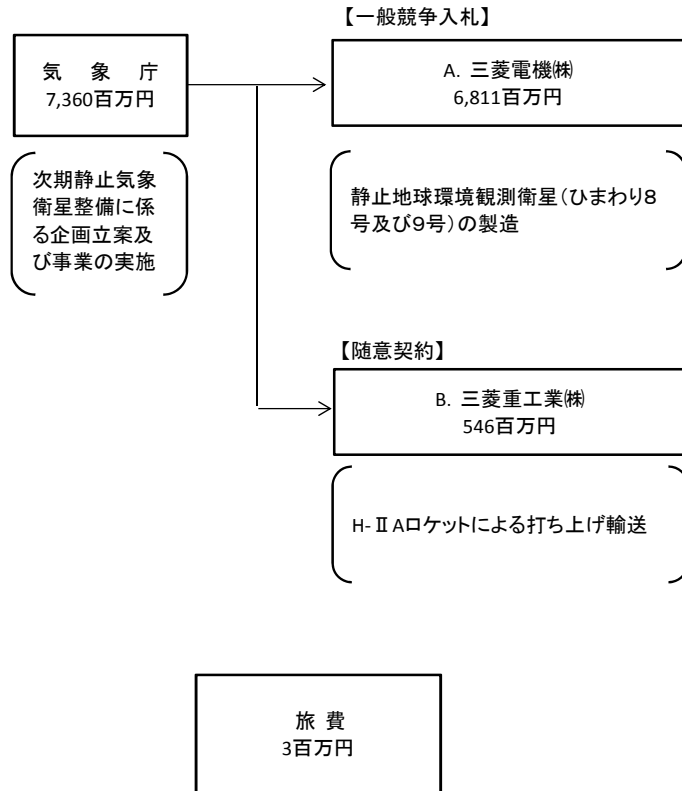


平成24年行政事業レビューシート (国土交通省)

<b>事業名</b>	次期静止気象衛星整備		<b>担当部局庁</b>	気象庁		<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成17年度～平成28年度		<b>担当課室</b>	観測部気象衛星課		<b>課長</b>	大林 正典		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	10 自然災害による被害を軽減するため、気象情報等の提供及び観測・通信体制を充実する					
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	気象業務法 (第3条、第4条、第11条 他)		<b>関係する計画、通知等</b>	防災基本計画(昭和38年策定) 宇宙基本計画(平成21年策定) 世界気象監視計画(WMOによる昭和38年開始)					
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国民の安心・安全に寄与する防災情報の作成及び地球環境の監視に欠かせない静止地球環境観測衛星を平成26・28年度に打ち上げるための整備を着実に推進する。								
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	観測手段が少ない太平洋上からユーラシア大陸まで広く包括的に観測するため静止気象衛星を整備しており、現在運用している静止気象衛星ひまわり6号・7号の運用期間は平成27年度までを予定している。この運用期間が満了する平成27年度までに後継となる静止気象衛星を整備する必要があり、また、衛星本体1機の製造期間が5年程度必要なことから、平成21年度から次期静止気象衛星ひまわり8号及び9号の製造に着手している。また、観測データは台風監視等の防災上の観点から重要なデータであり、機器故障等によるデータの欠落を防ぐためバックアップ体制をとっており、次期衛星においても引き続き2機体制の整備を継続するものである。なお、宇宙空間における静止気象衛星の運用期間は、現行衛星では1機あたり5年であるが、次期衛星では1機あたり7年に運用期間を延ばし長寿命化を図ることとしている。								
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		当初予算	7732	7546	6814	7072			
		補正予算	0	0	1044	0			
		繰越し等	0	0	-498	498			
	計	7732	7546	7360	7570	0			
	執行額	7732	7545	7360					
執行率(%)	100%	100%	100%						
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	成果指標				単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	現行衛星ひまわり7号の運用期間が平成27年度に終了するため、防災上重要な衛星の観測データが欠落しないよう次期衛星ひまわり8号を平成26年度に打ち上げ、平成27年度の運用開始を目指す。また、バックアップのひまわり9号を平成28年度に打ち上げ、平成29年度の運用開始を目指す。			成果実績	-	-	-	-	目標:運用開始 ひまわり8号 H27 ひまわり9号 H29
				達成度	%	-	-	-	
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標				単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	次期衛星製造進捗率			活動実績 (当初見込み)		36.0%	60.7%	87.8%	— ( ) ( ) ( )
<b>単位当たりコスト</b>	3,680 (百万円/機)			算出根拠	H23予算執行額/衛星機数				
平成24・25年度予算内訳	<b>費目</b>	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	職員旅費	3							
	静止気象衛星制作費	7068							
	計	7072	0						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛星観測データは、台風や集中豪雨等の自然災害による被害の防止や軽減を図るために用いられており、広く国民のニーズがある。</li> <li>・次期衛星の管制・運用について、PFIを導入し、民間の資金及び能力を活用することとしている。</li> </ul>
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期気象衛星の製造に当たっては、一般競争入札を導入し、競争性の確保に努めている。</li> </ul>
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期気象衛星の製作は順調に進んでおり、着実な成果を上げている。</li> </ul>
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静止気象衛星は宇宙空間において長期間の運用を行うものであり、精密性及び堅牢性を求めるため1機あたり5年程度の製造期間が必要である。各衛星を平成26年度及び平成28年度に確実に打ち上げるためには本事業を継続する必要がある。</li> <li>・衛星の製造については、一般競争入札で請負業者を決定し国庫債務負担行為を活用して複数年度契約を行っており、各年の事業進捗見込みに応じた支出を行っている。</li> </ul>		
予算監視・効率化チームの所見			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	507	平成23年行政事業レビュー	484

※平成23年度実績を記入



**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。費  
 目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

A.三菱電機(株)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
備品	静止地球環境観測衛星(ひまわり8号及び9号)の製造	6,811			
計		6,811	計		0
B.三菱重工業(株)			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
委託	H-II Aロケットによる静止地球環境観測衛星の打上げ輸送	546			
計		546	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱電機㈱	静止地球環境観測衛星(ひまわり8号及び9号)の製造等※	6811	4	84.11
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※ 複数年度契約であって、23年度より前に契約を行ったもの

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱重工業(株)	H-II Aロケットによる静止地球環境観測衛星の打上げ輸送	546	随意契約	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					